



大阪市消防局 災害活動支援隊

総務課
警防課



荒木 勇

参集署 大正
平成27年3月退職

1 消防に入る切っ掛け

私は出雲市の出身で、松江工業高等専門学校機械工学科を卒業して民間の鉄工所に一年足らず勤務していました。昭和49年のオイルショックの影響もありまして、転身を考えていたときに目にした朝日新聞に大阪市消防局の募集案内が載っていたのを見て受験しました。

2 88期生として

昭和52年4月に消防学校に入り、10月に東消防署に配属になりました。本署が工事中のため、旧南大江小学校校舎が消防署庁舎で仮設庁舎の環境には驚きました。半年後には新庁舎が完成し、

移設前夜に一人で新庁舎の留守番をさせられたのも思い出の一つです。火災現場の少ない署でしたが、出勤日には結構多く、反物の積まれた倉庫火災では、消火に手間取りました。消防の隔日勤務にも慣れて来た丸一年で転勤する事になりました。

3 火災・救急指令業務自動化システムの運用開始に伴い

昭和53年10月4日、119番の受付から最適消防隊の編成と出場指令までの一連のオペレーションがオンラインで可能となるシステムの開始と同時に、計画課警備計画係電算担当に転勤。当初は仮眠室が無かったので、7階の和室を利用していました。

当時は、今のようないデジタル画像もなく警防計画画面などはフィルム映像でした。消防士・士長時代の8年間、勤務し司令補に昇任して淀川へ転勤しました。

4 化学車とSTに乗車

淀川消防署には化学車が配置されて

おり、当時の淀川区には現在に較べかなり化学工場が多かったと見受けます。その化学小隊長となり、1年後に地域指定出場のST(小型タンク車)と乗り替え運用となりました。STは方面原則に従わず、迅速に直近部署する方針で水利を取らなくてよかったです。水利担当としての業務もしていました……。

当時から、「自身は勿論ですが、隊員達にも怪我をさせてはならない」というのをプロとしてのモットーにしていました。3年間警備担当をして、再び旧の電算担当である情報通信係に戻りました。

5 司令に昇任して、直ちに出向

市民局に出向し、先に出向されていた上司と防災システムの立ち上げに従事することとなりました。現状を知るため府庁舎や市役所、区役所、各部署を訪れたことも懐かしい思い出です。システムの運用を二年間担当して、4年間務めて計画課に戻りました。

計画課では、平成7年1月17日に発生した兵庫県南部地震(阪神淡路大震災)の教訓を踏まえ、大規模災害等に被災した都道府県内の消防力では対応が困難な場合に、国家的観点から全国の消防機関相互により人命救助活動等を迅速かつ効果的に実施する「緊急消防援助隊」の創設と運用開始に向けて他都市との調整などに走り回りました。

6 管理担当となつて

西・平野・大正と7年間、昔でいう庶務担当として、西、大正では庁舎建て替えに携わりましたが、平穩無事に終えさせて貰う事が出来ました。最後は、大正の警防副署長として自身が怪我することも隊員に怪我させることもなく無事に定年退職させて貰いました。

7 カッコ良くなって……

私が入った高度成長期直前頃とは社会の消防の見方も変わって、先輩や同輩の努力の積み重ねと消防署の建物も建て替わり職員も改善され、消防だったという「カッコいい」と言われたりします。後輩の皆さんが、仕事をやり易くなってきているのではないかなと思つていきます。

8 チームワークが大切

38年間、上司、先輩、同僚、後輩等々のお蔭で、モットーにしていた「怪我をしない、させない」、+1-1=プラスマイナス0ではダメ。一人助けでも、一人が死んで駄目だと思つています。そのためには、ひとりのスーパーマンはいらない!! チームワークが大切である事も実感しました。状況に合わせて、守って引く事も大事なことだと思つています。